



交通のご案内

地下鉄東西線 西28丁目駅
 循環西21 山の手線 北海道医療センター前 下車
 西21 山の手線 北海道医療センター前 下車

地下鉄東西線 宮の沢駅
 JRバス 西21 山の手線 北海道医療センター前 下車

車で
 ■旭川・苫小牧方面より自動車ご利用の場合
 札幌自動車道新川インターから
 新琴似通り経由、山の手通り沿い
 ■小樽・余市方面より自動車ご利用の場合
 札幌自動車道札幌西インターから
 北5条手稲通り、新琴似通り経由、山の手通り沿い

地下鉄東西線 琴似駅 JR JR琴似駅
 JRバス 琴43 西野中州橋線 北海道医療センター前 下車
 ■タクシーご利用の場合
 ○JR琴似駅より…………… 約1,200円前後
 ○地下鉄琴似駅より…………… 約1,000円前後

まいにちから、まんいちまで。 独立行政法人 国立病院機構 **北海道医療センター**

〒063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番1号

TEL 011-611-8111 北海道医療センター 検索

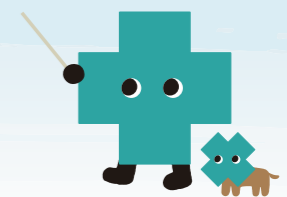
URL : <https://hokkaido-mc.hosp.go.jp/>



2024.5



まいにちから、まんいちまで。



医療を
実践
します。
調和を
大切
にする
人と
自然
の健
康と

基本
理念



院長の挨拶



院長 伊東 学

北海道医療センターは、地域医療支援病院、紹介受診重点医療機関、在宅療養後方支援病院の指定を受け、地域の急性期医療のニーズに答える一方、札幌市のみならず北海道全域をテリトリーとした政策医療（神経難病、精神科身体合併症、小児慢性疾患、結核）を担う難病診療連携拠点病院でもあります。さらには災害医療の拠点としての準備も怠ることのないよう日々努力を重ねております。

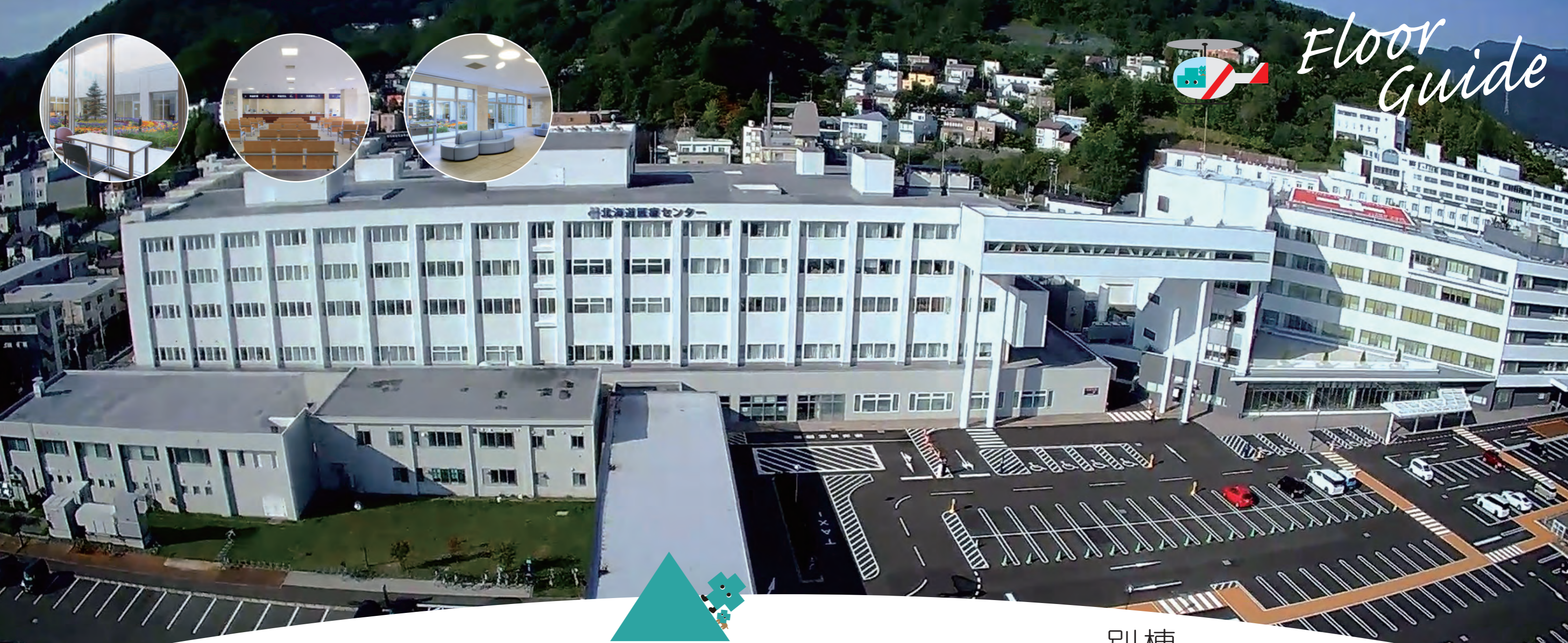
全病床643床は、一般410床（救急30床）、結核21床 精神40床、筋ジストロフィー116床、重症心身障害56床からなっています。3次救命救急の超急性期から神経難病、小児慢性疾患（市立札幌山の手支援学校 併設、小児腎臓病センター・小児遺伝代謝センター 設置）、筋ジストロフィー・重症心身障害（北海道手稲養護学校三角山分校 併設）、精神科身体合併症、結核、まで、セーフティーネット系の医療ニーズにも対応する「スーパーハイブリッド」病院です。がん医療については、北海道がん診療連携指定病院として、がん診療センター、内視鏡手術（低侵襲手術）センターが中心に集学的な治療を実施しています。結核は多剤耐性菌、人工透析患者さんなどへの対応も可能です。新型コロナウイルス感染では、北海道の拠点病院としての役割を果たしました。神経筋センターは、北海道難病医療ネットワークの基幹病院としての役割を担い、地域の方々はもちろん北海道全域から患者さんを受け入れています。精神科は、身体合併症診療という受け入れ医療機関の少ない分野に挑戦しています。また、認知症疾患医療センターでは、地域のクリニックと精神科専門病院をつなぎ、これからあるべき認知症医療を目指し、地域ネットワーク作りに取り組んでいます。

2020年8月に西館が増築され、国立病院機構八雲病院の筋ジストロフィーと重症心身障害の機能が移転しました。八雲病院は、かねてから「神経筋疾患の呼吸リハビリテーションとマネジメントセンター」として国内外から高い評価を受け、札幌移転により専門医療へのアクセスが良くなり期待を集めています。

臨床研究部では、神経筋疾患、免疫異常、成育医療を中心に広く臨床研究を行い、情報発信を活発に行っています。新薬開発のための治験へは、全病院をあげて積極的に参加しています。

人材育成は、当院のもう一つの大切な使命です。初期研修医の受け入れ、後期研修医に対する専門医教育、附属看護学校の運営、診療看護師をはじめとする高度な技術を有する看護師の育成、各職種における知識・技術向上のための研修会への参加奨励など、より良質な医療人を輩出するよう努めています。

北海道医療センターは「ことわらない医療」を実践し、地域の皆様の「まいにちからまんいちまで」を支えます。



フロア案内

643床 [一般病棟410床、結核21床、精神40床、筋ジストロフィー116床、重症心身障がい56床]
 一般病棟 [10病棟]、精神病棟 [1病棟]、結核病棟 [1病棟]、救命救急センター [1病棟]、一般ICU [1病棟]

東館

南棟

4F	4-3病棟 (42床) 地域包括ケア病棟 4-4病棟 (42床) 神経・筋センター
3F	3-3病棟 (50床) 消化器センター 3-4病棟 (50床) 外科・腎臓病センター
2F	2-3病棟 (50床) 運動器・脳卒中センター 血液透析室 手術室 中央材料室
1F	放射線部門 外来診察

北棟

5F	5-2病棟 (53床) 呼吸器・膠原病センター・管理部門	渡り 廊下
4F	4-2病棟 (40床) 心のケアセンター 医局	
3F	3-1病棟 (60床) 成育・女性医療センター リハビリ室	
2F	救命救急センター (30床) 一般ICU (4床) 2-2病棟 (42床) 循環器センター 中央医療機器管理室	
1F	正面玄関・総合案内 薬剤・検査 売店 食堂 救急外来 医事課・地域医療連携室・認知症疾患医療センター	渡り 廊下

西館

西棟

屋上	ヘリポート
5F	会議室 難病診療センター 小児慢性特定疾病・在宅・移行期医療支援センター
4F	西4病棟 (56床) (短期入所4床) 重症心身障がい児(者)
3F	西3病棟 (58床) (短期入所2床) 筋ジストロフィー
2F	西2病棟 (58床) (短期入所2床) 筋ジストロフィー
1F	時間外出入口・防災センター 病児・病後児 保育室 交流ラウンジ・宿泊室 NIVセンター室 神経筋/成育外来 小児慢性特定疾病・在宅・移行期医療支援センター外来 リハビリ室・療育指導室 トレーニング・ラボ室
B1F	栄養部門

別棟

臨床研究棟

附属札幌看護学校



- ◆臨床研究部
- ◆教育研修部門
- ◆備蓄庫部門

- ◆設置年月/平成15年4月
- ◆1学年定員/80名
- ◆総定員/240名(3年課程)



北海道医療センターの 総合力

3次救命救急センターを有し、急性期(救急医療、災害医療、がん等)から慢性期(神経難病、結核等)、長期療養(筋ジストロフィー、重症心身障がい)まで全ての医療ニーズに対応するハイブリッドな病院です。

「ことわらない医療」の実現を目指し、地域と連携・協力し、専門的かつ総合力で良質な医療を提供しています。



基本方針

- 高度専門医療、救急医療、政策医療を核に、先駆的な総合医療をめざします。
- 患者のみならず立場になり、十分な説明と同意に基づく医療を行います。
- 医療の安全管理に万全を期し、安心できる医療を提供します。
- 信頼される医療連携を実践し、心のかよう地域医療に努めます。
- 臨床研究と情報の発信を積極的に行い、医療の進歩に貢献します。
- 情豊かな医療人を養成し、教育・研修に指導的な役割を果たします。
- 地域や公益を重視し、病院の健全経営をめざします。
- 地域の健康と絆を大切に、潤いある自然環境と快適な医療施設を提供します。

沿革

- 昭和 5年 市立札幌療養所として創設
- 昭和18年 日本医療団札幌療養所として改称
- 昭和22年 厚生省に移管、国立札幌療養所として発足
- 昭和44年 国立療養所西札幌病院と改称
- 平成14年 国立療養所小樽病院と統合
- 平成16年 独立行政法人国立病院機構西札幌病院と改称
- 平成22年 国立病院機構西札幌病院と国立病院機構札幌南病院が統合し、独立行政法人国立病院機構北海道医療センターとなる
- 令和 2年 国立病院機構八雲病院 機能移転

公的な機能指定

- 更生医療指定医療機関 ● 育成医療指定医療機関
- 精神通院医療指定医療機関 ● 結核指定医療機関
- 第二種感染症指定医療機関(結核) ● 療育医療指定医療機関
- 難病医療費助成指定医療機関 ● 小児慢性特定疾病指定医療機関
- 労働者災害補償保険法指定医療機関 ● 生活保護法指定医療機関
- 原子爆弾被爆者医療指定医療機関 ● 二次救急医療機関
- 三次救急医療機関 ● 救命救急センター ● 緊急被ばく医療の二次医療機関
- 精神科合併症受入協力病院 ● 北海道難病診療連携拠点病院
- エイズ治療拠点病院 ● 地域災害拠点病院(北海道)
- 災害時基幹病院(札幌市) ● 臨床研修指定病院(基幹型)
- 地域医療支援病院 ● 北海道がん診療連携指定病院
- 北海道移行期医療支援センター ● 紹介受診重点医療機関
- 札幌市 認知症患者医療センター

診療科		【全33科】	
内科	内分・代謝・糖尿病内科	腎臓内科	循環器内科
精神科	脳神経内科	呼吸器内科	消化器内科
アレルギー科	リウマチ科	小児科	外科
脳神経外科	呼吸器外科	小児外科	皮膚科
形成外科	泌尿器科	婦人科	眼科
リハビリテーション科	放射線科	麻酔科	救急科
血液内科	小児神経内科	心療内科	歯科
			緩和ケア内科



臨床研究に関する方針

- 臨床研究部を設置し、主として神経・筋疾患、成育医療、免疫異常に関する臨床研究を推進するとともに、国立病院機構共同研究への参加、外部研究への参加(外部競争的研究資金の獲得)、治験の積極的な推進を図る。

教育研修に関する方針

- 臨床教育研修部を設置し、他国立病院機構病院及び大学病院とも協力しながら、初期臨床研修、後期臨床研修に積極的に取り組む。
- 看護部に教育担当看護師長を置き、看護職の臨床看護実践能力の向上のための教育研修を推進する。
- コメディカル養成施設等からの実習受け入れ、救急救命士実習等の受け入れも積極的に行う。
- 附属看護学校を運営し、看護師として必要な知識及び技能を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。



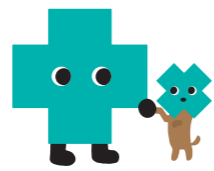
当院は、病院機能評価3rdG:Ver.2.0の認定を受けています。この認定証は、病院組織の運営と地域における役割、患者の権利と安全確保の体制、療養環境と患者サービス、医療提供の組織と運営、医療の質と安全のためのケアプロセス、病院運営管理の合理性などについて、(財)日本医療機能評価機構による第三者評価を行い、その認定基準に達しているかどうかの評価を受けたものです。これからも、病院職員が一丸となって病院機能評価の認定水準を維持し、患者さんが安心して治療を受けられるよう努力し続けてまいります。
(2024年1月病院機能評価 3rdG:Ver.3.0 受審)

診療に関する方針

- 神経・筋疾患、成育医療、免疫異常に関する高度で専門的な医療を行う。
- がん、循環器病、腎疾患、内分・代謝性疾患、骨・運動器疾患、肝疾患に関する専門的な医療を行う。
- 呼吸器疾患(結核を含む)に関する専門的な医療を行う。(結核の拠点施設)
- 災害時の診療支援機能を備え、高度で総合的な医療を行う。
- エイズに関する専門的医療を行う。(エイズ治療拠点病院)
- 救命救急センターとして救急医療を行う。
- 精神(主として身体疾患合併の精神疾患患者)に関する医療を行う。
- 神経筋/成育センターとして筋ジストロフィー、重症心身障害のセーフティネット分野に関する医療を行う。



地域の健康と絆を大切にする



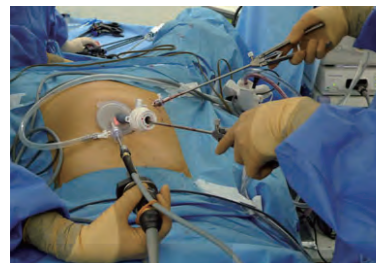
当院は地域のニーズに応え、 超急性期から慢性期までの幅広く 良質な医療を提供します。



救命救急センター 当センターでは、心肺停止、ショック、意識障害、呼吸不全、肝不全、腎不全、急性腹痛、急性中毒、環境障害（熱中症など）、外傷等により救急車で搬送される患者様の初期診療、そして集中治療が必要な患者様の全身管理を各科との協力体制の下に24時間体制で対応しています。
また、循環器内科と脳神経外科が24時間体制を引いており、急性心筋梗塞や大動脈瘤、脳卒中にも常時対応しています。その他各科専門の急性疾患についても、救急科医師が窓口となり初期対応を行った後、各専門科の医師と連携協力して治療対応しています。



がん診療センター 当院はさまざまな疾患に対する高度専門医療や救急医療のほか、がん診療にも力を入れています。がん診療連携指定病院として、がん相談支援室、がん緩和ケア室、院内がん登録室を設置し、がんの低侵襲手術、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など最新のがん薬物療法を患者さんの状態や治療内容に応じて入院や外来でおこなっています。なお、当院は日本がん治療認定医機構、日本臨床腫瘍学会、日本緩和医療学会の認定研修施設にもなっています。



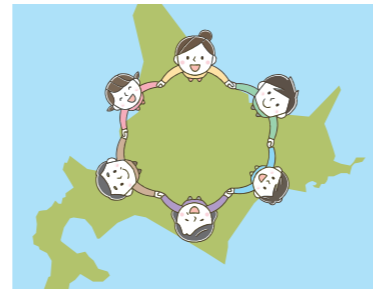
低侵襲手術センター 当院の低侵襲手術センターは、患者さんの身体に対して「優しい手術」をモットーとして、傷の小さな手術を悪性腫瘍や良性腫瘍をはじめとするさまざまな疾患に行っています。当センターは外科、婦人科、呼吸器外科、泌尿器科、以上4科で構成され、5名の日本内視鏡外科学会認定・技術認定医、およびそれぞれの分野のエキスパートによる高度な低侵襲手術を実践しています。



糖尿病センター 糖尿病専門医と看護師、栄養士、理学療法士、薬剤師、検査技師がチームを組んで、外来と入院が一体となって診療しています。
高血糖緊急症、周術期の血糖管理、糖尿病性足病変の治療等々、「病院で実施すべき糖尿病診療」に力を入れています。



検診センター 当院では従来、各科で行っていた検診を集約し、検診センターとして行うことに機構改革し、がん検診（胃、大腸、肺、乳腺、子宮、前立腺）、脳ドックにより、疾病の早期発見・早期治療に努めてきました。当院における先進の医療技術・医療設備を駆使して、予防から高度医療まで、皆様の健康づくりにお役立ちしたいと思えます。病気を「治療する」から「予防する」時代へと変わっていくなかで、当院の検診をご活用いただき、ご自身の健康管理、健康増進に役立っていただければ幸いです。



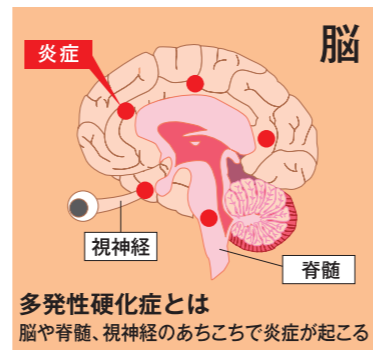
難病診療センター

北海道より北海道難病診療連携拠点病院の指定、北海道難病医療提供体制整備事業の委託を受け、2020年5月、難病相談室から難病支援センター・難病医療相談室に改組しました。難病診療分野別拠点病院（札幌医科大学消化器内科）、道内21の難病医療協力病院および、神経疾患分野・炎症性腸疾患分野のネットワーク医療機関とともに難病医療体制の充実を図っております。



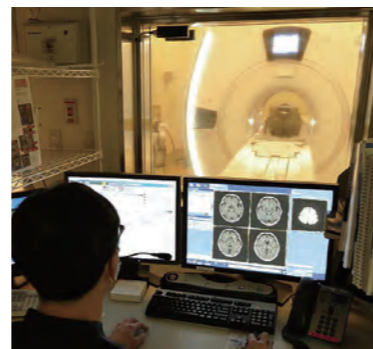
小児慢性特定疾病・在宅・移行期医療支援センター

医療の進歩とともに小児慢性特定疾病など専門性の高い疾患の予後が飛躍的に良くなってきています。そのため小児から成人へと年齢が上がってきている患者様への医療ニーズに応えるべく小慢性特定疾病・在宅・移行期医療支援センターを開設いたしました。小児から成人に移行する年齢の方への医療、ケア、医療機関紹介などの相談・支援を行ってまいります。



神経免疫疾患センター

多発性硬化症・視神経脊髄炎および重症筋無力症をはじめとする神経免疫疾患は、神経症状以外の症状・所見を呈することがまれではなく、眼科、胸部外科、泌尿器科など他科との関係が非常に大切な疾患です。神経免疫疾患センターは、これらの疾患の専門医とともに充実した当院の診療科ネットワークを駆使して、患者さんの診療がスムーズに、そして適切に行えることを目的に診療しています。診断から治療、そしてその時々の病状にあわせた対応まで、きめ細かく出来るよう幅広い連携を密に行いながら診療を行っておりますので、お気軽にご相談ください。



認知症疾患医療センター

当院の認知症疾患医療センターは、当初、西区を中心とした「地域で認知症を診ていく」環境を作り上げる一助なることを願い「認知症疾患診断センター」として2016年10月に開設し、2024年4月に札幌市指定の「認知症疾患医療センター」へと移行しました。
当センターでは、認知症診断、身体合併症治療、新規抗体薬治療、専門医療相談などを行い、かかりつけ医、介護・福祉施設などと連携し、認知症患者のそれぞれの状態に応じた適切な医療を「地域」として提供できる体制作りを行っています。

地域医療連携室

外来・入院患者さんをはじめ、地域医療機関が直接アクセスできるよう外来の一角に設置されており、医療福祉・介護に関する相談をお受けしております。また地域医療機関の窓口として対応し、地域医療連携ネットワークの構築・強化に努めております。

- 1 地域医療機関からの紹介患者さんの窓口
- 2 医療福祉・相談・退院へ向けた支援（在宅復帰・転院支援）
- 3 地域の医療従事者向け研修会・講演会の事務局
- 4 地域医療連携ネットワークの構築を目的とした広報活動
- 5 地域医療機関と定期的な情報交換を行い「顔の見える連携」を推進

神経筋・成育センター



筋ジストロフィー

筋ジストロフィー病棟は西2病棟、西3病棟を合わせて116床を有しています。生活の質に配慮しながら、身体機能の低下に応じた長期療養のための専門的医療ケアを提供しています。筋ジストロフィーは少し前までは気管切開や寝たきりの生活が当たり前とされていましたが、NIVを主とした呼吸管理や電動車椅子などの支援技術の進歩により、個々の活動性が向上しています。

NIVセンター

気管切開を回避することができるNIV（非侵襲的換気療法）の導入、継続にはインターフェイスの選択が重要になります。NIVセンター室には携帯型の各種人工呼吸器や鼻マスク、鼻プラグ、口鼻マスク、マウスピースなど国内全メーカーと選ばれた海外メーカーのインターフェイスが100種類以上陳列され、患者自身が実際に見て触れて、選ぶことができます。

呼吸リハビリテーション

NIVを良好に継続するためには肺と胸郭の健全性を維持し、咳機能を代償するための徒手や機械による咳助（MIE）を行うことが重要です。理学療法室では筋ジストロフィーなどの神経筋疾患に特化した呼吸リハビリテーションを実施しています。

シーティング・クリニック

重度な脊柱変形や機能障害、人工呼吸器を使用する患者が、快適に活動するための電動車椅子をオーダーメイドするシーティングクリニックには全国から患者が訪れます。病気の進行に合わせた適切な活動姿勢条件の調整や、呼吸と嚥下に配慮したアクティブバランスシーティング（ABS）を提供しています。

作業療法

重度な機能障害を代替する支援技術を駆使し、「できない」を「できる」に変えるサポートは、患者の自己達成の機会であり残った機能を最大限に生かすリハビリテーションです。就学支援やテレワークなどの就労支援の他、eスポーツや3Dプリンターによる作品や福祉機器の制作などの活動を支援します。

重症心身障がい病棟

西4病棟は重度の知的障がいおよび重度の肢体不自由が重複した重度の障がい児（者）が生活しています。医学的管理下で長期療養のQOLを支える専門性の高いケアや教育面の取り組みが行われています。

療育活動

児童指導員、保育士が配置され、主に療養介護サービス・医療型障がい児入所施設入院患者の福祉、教育、心理、保育の部分で関わっています。病棟生活をより楽しく過ごせるよう、外出や院内行事活動を提供しています。





地域の健康と絆を大切にする

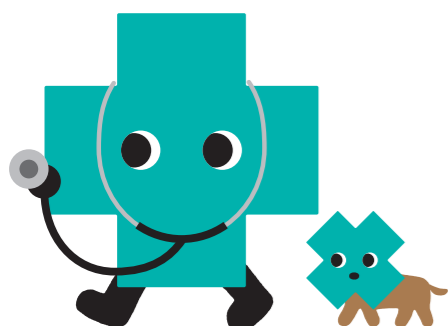
知識・技術・優しさのある 看護を提供する



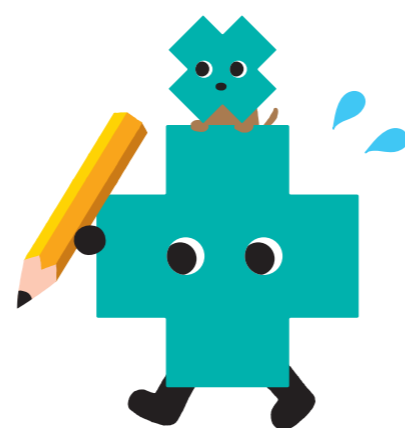
医療を担う人材 を育成する

看護部

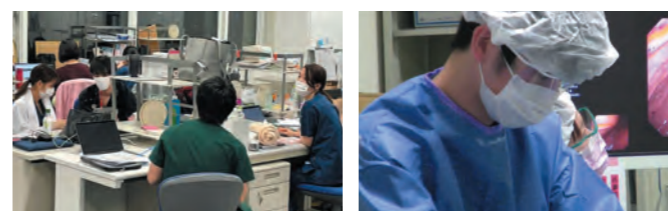
他職種によるチームカンファレンス



私たちは患者さんに対する治療や支援の方針をさまざまな担当スタッフが分野の枠を超えて定期的集まり、患者さんにとって何が最適な状態かを話し合っています。医師や認定看護師のほか、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士、心理療法士がお互いの専門性を活かし、チームとして関わっています。



臨床研修



道内・道外より臨床研修医を積極的に受け入れ、専門的な知識と技術習得の場を提供。人間性あふれる医師の育成に力を注いでいます。



初期臨床研修医研修、 後期臨床研修、救命救急研修など

当院は基幹型研修病院として、多くの初期研修医を受け入れています。研修期間に身につけるべき技量・知識はもちろん、豊かな人間性をもった医師に育つよう研修の場を提供しています。また、後期臨床研修や消防署、専門学校からの救急救命士になるための研修や各学校からのコメディカルや看護師になるための研修・実習にも協力しています。

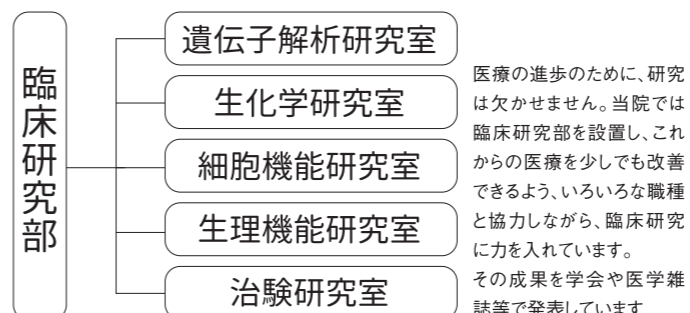


特定行為研修

指定研修機関として専門的な知識と技術を持った看護師を育成し、患者さんや地域住民が必要とする医療を安定的かつ継続的に提供出来るよう、医療の質向上に努めています。

医療の進歩に貢献する

臨床研究



看護学生の臨床実習

実習を通して大切にしたいことに気づいてもらえるように、実習生と共に患者さんに関わっています。